

母孔雀（1956）

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1956/12/05

【解説】

竹田敏彦の同名小説をもとに「おかしな奴」の笠原良三が脚本を書き「水戸黄門漫遊記」シリーズの伊賀山正徳が監督。撮影は「怒れ！力道山」の西川庄衛、音楽は「あなた買います」の木下忠司。「妖蛇の魔殿」の田代百合子演じる母親が、父の異なる子供たちのために取った行動とは…。

しず子はかつて旅館の住み込み女中として働いていた。だが病気の夫による不倫がもとで、二人の娘と夫を捨てて家を飛び出してしまう。その後、自分を救ってくれた紅谷梅太郎と結ばれるが梅太郎は病死、しず子は彼の遺児である俊夫と夫の仕事を引き継ぎ紅一証券の女社長となった。しず子の秘書である三沢は東海化学社員の小川淳子と親しくなるが、そこはしず子が増資権利を狙う会社だった。俊夫は車で小川正子という少女を轢いてしまい病院に搬送するが、彼女の姉である小川淳子と出会い、お互いに想いを寄せるようになる。実はこの小川淳子と正子こそ、しず子がかつて捨てた二人の娘だった。

【クレジット】

監督 伊賀山正徳

企画 原伸光

原作 竹田敏彦 「母孔雀」

脚本 笠原良三

撮影 西川庄衛

美術 北川弘

音楽 木下忠司

出演 田代百合子

高倉健

松島トモ子

三浦光子

宇佐美淳